

野中春秋

遠
藤
霞
外

千萬の思ひをこめて友がりへおくるもたのし歌の數々
示さるゝまゝに衣の裏見れば實の玉のかゝるなりけり
百年を胡蝶となりて花の上に遊ぶ聖の夢のあとかな
ほがらゝ晴れてうつくし野も山もいとゞのとき春にもあるかな
待つ人のありと知らずや時鳥はやく來て鳴け山の下庵
わか庵はしげる若葉につゝまれて木蔭涼しく風をよくなり
大寺の門までつゞく並木道たどる夕ぞ涼しかりける
訪ふ人のなき山里も秋風は木の葉さそひておとつれにけり
山里の庵はいとゞ寒くして雪かとまがふ庭の霜かな
流されし昔の聖思ふかなはなれ小島を船路より見て